

[外国語]

外国人観光客との交流活動を通して児童の 国際的志向性を育む授業実践

－教科横断的単元「Welcome to Japan and Myoko!」の開発－

早津 康平*

1 はじめに

小学校における外国語（英語）の授業では、自分の気持ちを言葉で友達に伝える、相手の気持ちを受け止めるといった経験を積む中で、他者と心がつながる楽しさを児童が感じる事が重要である。日本語のように流暢に話せない英語だからこそ、相手の思いをなんとか聞き取ろうとしたり限られた語彙でなんとか伝えようとする過程で、心のこもったコミュニケーションが生まれると思われる。外国語の授業で扱う題材には、教室における自己開示の機会を広げ、他者理解を促進する可能性がある。したがって、日本人同士であっても、教室において英語を用いて学び合うことには十分な意義がある。

同時に、実際に外国人と英語でコミュニケーションを取る体験も重視したい。児童には、自分たちが学んでいる英語が本当に外国の人々に伝わり、英語を通じて世界の人々と交流できることを実感してほしい。また、外国人と関わる体験を通じて、英語や外国文化への興味をさらに広げていくことが期待できる。

ここで、外国への関心を意味する「国際的志向性」という概念に着目する。八島（2004）によれば、国際的志向性とは、日本において英語が象徴する「漠然とした国際性」、すなわち国際的な仕事への関心、日本以外の世界と関わろうとする態度、異文化や外国人に対する態度などを包括的にとらえた概念である。外国語学習において国際的志向性を高めることができれば、それに伴い、Willingness to Communicate (WTC)、L2学習意欲、さらにはL2によるコミュニケーション能力の自己認知が高まる可能性がある（物井、2015）。渡邊・大場（2025）の実践では、日本の大学で学ぶ留学生との交流を通じて児童の国際的志向性を育成している。結果として、留学生との交流は国際的志向性の芽生えや外国人への関心につながり、WTCや英語でのコミュニケーションへの自信を高めることが示されている。従って、外国人との交流は、児童の国際的志向性（外国への興味・関心など）を高める契機となり、それが英語を話す意欲（WTC）や自信、さらには外国語学習への意欲向上へとつながると考えられる。

本実践においても、筆者は国際的志向性と共に、英語によるコミュニケーションへの自信や学習意欲の高まりを目指し、外国人との交流活動を構想した。渡邊・大場（2025）の実践が留学生を教室に招く形式であったのに対し、本実践では学校の外に出て、地域を訪れる外国人観光客との交流活動を設定した。この形式により、児童は実社会とのつながりの中でより多くの外国人と接し、オーセンティックなコミュニケーションを通じて国際的志向性を一層高められる可能性があると考えたからである。さらに、当該学年では、年間の総合的な学習の時間のテーマを「広がる 広げる 私の世界」と設定し、新たな経験に挑戦することを通じて自己の世界を広げる学習活動に継続して取り組んでいた。外国人との交流は、これまで接する機会の少なかった対象との関わりであるため、「生きる世界を広げる」というテーマと合致すると同時に、児童がこれまでの学習で体験してきた地域の魅力を外国人観光客に発信する動機づけにもつながると考えた。

以上のことから、本実践では、児童の国際的志向性と共に、英語への自信や学習意欲を高めるために、外国語科と総合的な学習の時間を統合した教科横断的な学習単元を設計し、外国人観光客との校外交流をゴールとする授業実践を行うこととした。

2 研究の目的

本実践の目的は、小学校外国語科と総合的な学習の時間を統合した教科横断的な学習単元を設定し、外国人観光客と

*妙高市立新井小学校

の校外での交流活動を通じた授業実践を行うことが、児童の国際的志向性と共に、英語でのコミュニケーションへの自信や外国語学習意欲向上にどのような効果をもたらすのかを検証することである。

3 実践の内容

(1) 実施時期

2024年12月～2025年2月

(2) 参加者

新潟県内の公立小学校5年生（2クラス）、62名（男子26名、女子36名）

(3) 単元名

「Welcome to Japan and Myoko!」（外国語科と総合的な学習の統合による教科横断的な学習単元）

(4) 単元のねらい

- ・新潟県妙高市のロッテアライリゾートを訪れている外国人観光客に、自分たちの作った英語による日本や妙高の紹介動画を見てもらう活動を通して、日本や妙高の魅力を知ってもらう喜びを感じる。
- ・実際に外国人観光客と英語で話す経験やその活動に向けた学習を通して、これまでの外国語学習への成就感やこれからの外国語学習への意欲及び外国への興味を高める。

(5) 単元計画

本単元の学習は、外国語科の授業14時間（New Horizon Elementary English Course 5のCheck your Steps 2とUnit 7）と総合的な学習の時間の授業5時間を統合し、計19時間で行った（単元計画については表1参照）。

表1 単元計画

時間	教科	内容
1	総合的な学習の時間	単元の導入
2～4 (3時間)	外国語科	Check your Steps 2「聞いて私の町じまん」 ゴールの言語活動：妙高市の魅力を紹介する発表
5～14 (10時間)	外国語科	Unit 7 Welcome to Japan ゴールの言語活動：日本の行きたい場所についてのやり取り
15	総合的な学習の時間	交流活動の事前指導，練習
16, 17	外国語科 総合的な学習の時間	ロッテアライリゾートでの外国人観光客との交流活動（作成した英語動画を視聴してもらう活動）
18, 19	総合的な学習の時間	活動の振り返り

(6) 学習のデザイン（過程）

① 単元の導入

Check your Steps 2の学習を始める前に、これから行う外国語科の2つの学習のまとめとして、日本を訪れている外国人の人々に日本や妙高の紹介動画を見てもらう活動、具体的には、校区内にあるスキー場であるロッテアライリゾートでの交流活動を予定していることを伝えた。楽しみな様子を見せる児童もいれば、外国人に話しかけることに不安を感じている様子を見せる児童もいた。不安に感じている児童を勇気づける意味も含めて、児童たちに、教師が現地で外国人に日本や妙高について知りたいことをインタビューした動画を見てもらった。教師のチャレンジする姿を見せること、外国人観光客が日本や妙高について何を知りたいと思っているのかを伝えることを目的とした。

② Check your Steps 2「聞いて私の町じまん」

“You can ～.”や“It’s ～.”のような2学期に学習した表現を使用し、自分の町を紹介する発表を行うことが主な学習内容である。児童は、自分が紹介したい妙高市の人・もの・ことを選び、その魅力を紹介する英語による発表動画を作成した（図1参照）。妙高市の飲食店や観光地、妙高市出身の有名人等を取り上げる児童が多く、学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」を活用して、写真等を貼り付けたスライドに英語の説明を吹き込む形で発表動画を作成した。図1の動画の児童は、“You can see Naena falls.” “It’s big and beautiful.” “You can eat ice cream.” “It’s delicious.”のような表現で紹介する動画を作成した。スライドに吹き込む形式にした理由は、児童の負担感を考慮し

たからである。つまり、自分自身が映ることがないため、目線や表情、ジェスチャー等に意識を向ける必要がなく、英語を話すことだけに集中できることから、このような形式にした。

③ Unit 7 「Welcome to Japan!」

“Where do you want to go?” や “I want to go to ~.” のような表現を使用し、自分の行きたい場所や行きたい理由についてやり取りすることが主な学習内容である。日本国内で行きたい場所について友達とやり取りすることをUnitのゴールとした。児童は、そのやり取りの様子を撮影し、動画編集アプリを活用して日本の魅力を紹介する商業風動画を作成した(図2参照)。発表ではなくやり取りの形式にすることで、自分だけでなく相手にも意識を向けなければならず、表情や目線などにも気をつける必要があるなど、Check your Steps 2より少し高いレベルの活動とした。

④ 交流活動の事前指導と練習

ロッテアライリゾートでの交流活動に先立ち、活動の手順や注意事項等の事前指導と共に、外国人に話しかける練習を行った。3~4人のグループで外国人に声をかけ、動画を視聴してもらうこととし、動画視聴を依頼する英語表現(“We made video about Japan and Myoko.” や “Can we show it to you? など)をグループ内で分担して練習した。

⑤ ロッセアライリゾートでの交流活動

児童は、スキー場のゲレンデやセンターハウス内でグループごとに“Excuse me.” などと外国人観光客に話しかけ、動画視聴を依頼した(図3参照)。最初は緊張する様子も見られたが、どの外国人も笑顔で対応してくれたことで、児童たちの笑顔は次第に増えていった。“Nice video!” や “Your English is very good” など、賞賛の言葉もらうことで、児童は自信をもち、楽しそうにコミュニケーションを取る様子が見られた。また本活動は、その場で対話する形ではなく、動画の視聴を通じた交流にすることで、児童の不安の低減をねらった。動画の視聴を依頼する決まった表現をしっかりと練習することで、交流が可能となるからである。加えて、動画視聴後に動画の感想や妙高について英語で会話するなど、動画視聴だけでなく、外国人と自然にコミュニケーションを取る様子も多く見られた。

⑥ 活動の振り返り

交流活動の後、学校に戻り活動の振り返りを行った。まず、振り返り作文を書くことで、個人で活動を振り返った。その後、作文に書いたことをもとにしながら、クラスごとに教師主導の一斉授業形式で一人ひとり感想を述べながら交流し、活動の意義について考えを深めた。

4 データの収集方法

(1) 質問紙調査

児童の国際的志向性や英語でのコミュニケーションへの自信、外国語学習意欲を捉えるために、5段階尺度(5:はい, 4:少しはい, 3:どちらでもない, 2:少しいいえ, 1:いいえ)による質問紙調査を実践後に行った。質問項目は、物井(2015)を参考に作成し、「満足感・充実感」「自信」「学習意欲」「国際的志向性」の4因子から構成される7項目とした。

(2) 振り返り作文

ロッテアライリゾートでの活動後、児童は振り返りとして作文を記述した。授業者は「交流活動までの学習や交流活動のことを思い出して、感じたことや考えたこと、感想を書きましょう。」という指示を出し、記述内容や文章量等については制限を設けなかった。



図1 町じまん動画のスクリーンショット



図2 コマーシャル風動画のスクリーンショット



図3 動画視聴を通して交流している様子

5 実践の結果と考察

(1) 量的分析

表2は質問紙調査の各項目の平均値と標準偏差を示している。なお、5学年の全児童は62名であったが、ロッテアライリゾートでの交流活動に参加した61名を調査の対象とした。

表2 実践後の質問紙調査の平均 (M) と標準偏差 (SD) (N=61)

因子	項目内容	M	SD
満足感・充実感	1 この活動に満足している	4.78	0.45
	2 チャレンジできた	4.79	0.41
自信	3 英語でのコミュニケーションに自信が付いた	3.84	0.85
学習意欲	4 英語の勉強をがんばっていききたい	4.03	0.95
	5 外国の人との交流を楽しむことができた	4.62	0.57
国際的志向性	6 外国の人や外国に興味をわいた	4.02	0.94
	7 今度外国の人と出会ったら、話してみたい	3.46	1.28

また、それぞれの質問項目の回答数は、表3に示す通りである。

表3 実践後の質問紙調査の回答数 (N=61)

因子	項目内容	はい	少しはい	どちらでもない	少しいいえ	いいえ
満足感・充実感	1 この活動に満足している	48	12	1	0	0
	2 チャレンジできた	48	13	0	0	0
自信	3 英語でのコミュニケーションに自信が付いた	12	32	13	3	1
学習意欲	4 英語の勉強をがんばっていききたい	23	23	9	6	0
	5 外国の人との交流を楽しむことができた	41	17	3	0	0
国際的志向性	6 外国の人や外国に興味をわいた	21	26	9	4	1
	7 今度外国の人と出会ったら、話してみたい	16	16	16	6	7

項目1、項目2および項目5においては、いずれも高い平均値であり、多くの児童が外国人と話すという初めてのことにチャレンジする中で交流を楽しみ、満足感を得ることができたと考えられる。また、項目4や項目6からは、英語学習を頑張っていきたいという前向きな気持ちや外国への興味をもつ児童が多くいたことが分かる。しかしながら、項目3と項目7については、高い傾向は認められたものの、他の項目に比べるとそれほど高い平均値とはならなかった。項目3については、肯定的な回答をした児童が7割以上いるものの、わずか1回の交流活動だけでは、英語を話すことができたという自信をもつことができなかった児童もいたようである。項目7については、外国人と楽しく交流できた経験を得たとしても、馴染みのない外国人と話すことには、やはり心理的に高いハードルを感じる児童が少なくないのではないかと考えられる。

(2) 質的分析

量的な分析による結果を、児童の活動中の姿や振り返り作文の記述から考察する。振り返り作文については、児童の記述から質問紙調査の各因子と関連がある記述を抽出した。

① 活動に対する満足度や充実感について

表4は、質問紙調査の項目1と項目2で調査した、活動に対する満足度や充実感に関する記述を示している。活動中は外国人観光客との交流を楽しむ児童の姿が多く見られ、振り返り作文にも活動の満足感や充実感、交流の楽しさを表現する記述が多く見られた。また、外国人の反応に喜びを感じている記述「僕たちの動画を見て、『えーすごいきれい!』と言ってくれてうれしかったです。」からは、外国人の肯定的な反応やコメントが児童の満足感や充実感につながったことがうかがえる。加えて、「心が温かくなった」という言葉も見られるように、形式的に「やり取り」を行ったのではなく、心から交流を楽しめたことを実感している児童もいた。表5には、ロッテアライリゾートでの活動中に授業者が見取った、外国人と交流を深めている児童の姿を示している。活動中の児童の様子からも、動画を視聴してもらっただけにとどまらず、その場での即興的なやり取りを通して交流を深め、楽しんでいる姿が見られた。

このように児童たちは、英語でうまくやり取りできない外国人とのコミュニケーションに難しさを感じつつも、心を通わせて相手とつながる楽しさや喜びを感じることができたと思われる。そして、それが活動に対する高い満足感や充実感につながったと考えられる。

表4 振り返り作文の記述「活動に対する満足度や充実感に関すること」

- ・最初は緊張したけど、最後の方は慣れてきて、とても楽しかったです。
- ・活動が終わった後も、もっとしたかったなと思いました。
- ・外国人と話すのってこんなに楽しいんだなと思いました。とても楽しくて、勉強になった日でした。
- ・外国の人たちが、僕たちの動画を見て、「えーすごいきれい！」と言ってくれてうれしかったです。
- ・外国の人に動画を見せたら楽しそうにしてくれたし、感想などが聞けてうれしかったです。
- ・動画を見せた後、男の人が日本語で「やったー！」と言ってきて、一緒に記念撮影もしてくれて、心が一気に温くなりました。

表5 交流を深める子どもの姿

- ・名前を聞かれて、英語で名前を伝える姿。
- ・相手の出身地を聞いた後で、その国について質問する姿。
- ・相手の国について、知っていることを伝えたり、有名なものを教えてもらったりする姿。
- ・妙高のおいしい料理について聞かれて、答える姿。
- ・日本のことを好きになってもらいたいという思いから、家で作ってきた折り紙の作品をプレゼントする姿。
- ・一緒に記念写真を撮ったり、握手やグータッチでお別れしたりする姿。

② 英語への自信や外国語学習意欲について

表6は、質問紙調査の項目3、項目4で測定した英語への自信や外国語学習意欲に関する記述を示している。児童の記述から、外国人とのやり取りの中で自分の英語が伝わるという実感や外国人からの肯定的なフィードバック（「いい発音だね」など）が自信につながったと推察される。反対に、「緊張して難しかった」や「何を話しているか分からなかった」という記述も見られるように、母語でない英語でのコミュニケーションに難しさを感じる児童もいた。初めての経験であることによる緊張感やネイティブな英語を聞き取ることの難しさが、児童の自信につながらなかった可能性がある。

外国語学習意欲については、交流を通して感じることでできた楽しさや英語が伝わるという手応えが、更なる学習意欲や英語でのコミュニケーション意欲につながったと考えられる。

表6 振り返り作文の記述「英語への自信や外国語学習意欲に関すること」

- ・最初は自信がなかったけど、たくさん話して自信が付きました。この交流活動で、外国語に自信が付きました。
- ・最初は話しかけるのが緊張したけど、やってみたら意外ととどんどん話せてよかったです。
- ・外国の方に「いい発音だね」と褒められて、とてもうれしかったです。
- ・外国の人に話しかけるのは慣れていないし、緊張して難しかったです。何言っているのか分からないことも多かったです。
- ・とても楽しかったので、もっと英語を勉強したいという気持ちになりました。
- ・ちゃんと英語を話せてよかったです。また、外国の人と話したいです。だけど次は、少しレベルアップしていろんな英語を使って話したいです。

③ 国際的志向性について

表7は、質問紙調査の項目5、項目6および項目7で調査した国際的志向性に関する記述をまとめたものである。活動前は、外国人に対して、「なんとなく怖そう」や「やさしく話してくれるか不安」というように緊張や不安感を感じていた児童も少なくなかった。しかし、「話しやすく安心しました」や「外国人の方がやさしかった」、「話しやすくすごく楽しかった」などの記述からは、外国人の友好的な態度に触れたことで、外国人へのイメージが肯定的なものへと変化したことが読み取れる。そして、このような外国人に対する肯定的なイメージが、外国や外国人への興味、英語によるコミュニケーションへの意欲につながったと考えられる。

表7 振り返り作文の記述「国際的志向性に関すること」

-
- ・外国人をすごくいいと思えました。
 - ・外国人とは、話したことがなかったけど、話しやすくて安心しました。ノリが良くて楽しかったし、自信が付きました。
 - ・最初は緊張したけど、やってみたら楽しかったし、外国人の方がやさしかったです。
 - ・初めて外国の人にインタビューする時恥ずかしかったけど、話してみたらとてもやさしくてうれしかったです。
 - ・また外国の人と話してみたいです。
 - ・外国の人たちがやさしく話を聞いてくれて、話しやすくてすごく楽しかったです。だから、次外国の人にあったら、自分からあいさつをしたいです。
 - ・カナダの人にメープルシロップのことを聞いたら、「おいしいよ」と答えてくれました。もっと外国のことを聞いてみたいと思いました。
-

6 成果と課題

本実践では、小学校外国語科と総合的な学習の時間を統合した教科横断的な学習単元において、外国人観光客との校外での交流活動を通じた授業を行った。この実践により、児童の国際的志向性と共に、英語でのコミュニケーションへの自信や外国語学習意欲の高まりが示唆された。また、外国人と英語でコミュニケーションを取るという本物の体験は、活動の満足感や充実感を高め、外国人に対するイメージを変えたり、心を通わせて相手とつながる喜びを実感したりすることにもつながった。学校内における通常の外国語の授業の学びだけでは実現しない貴重な学びを児童は得ることができたであろう。

その一方で、外国人との交流が、1回限りの活動で終わってしまったことは、本実践の限界点である。複数回交流する機会をもつことができれば、前回の課題を改善したり新たなことにチャレンジしたりする姿が期待できただろう。しかしながら、このような活動を複数回行うためには、外国語科の年間授業時数である70時間だけでは難しさがある。本実践において総合的な学習の時間との関連を図ったように、教科横断的な視点で活動を展開していくことが必要になってくると考える。

参考文献

- 物井尚子 (2015). 「日本人児童のWTCモデルの構築－質問紙調査からみえてくるもの－」『日本児童英語教育学会研究紀要』第34号, 1-20.
- 八島智子 (2004). 『外国語コミュニケーションの情意と動機』関西大学出版部.
- 渡邊紘子・大場浩正 (2025). 「小学校外国語科におけるL2 WTCを高める手立てとその効果」『上越教育大学教職大学院研究紀要』第12巻, 165-174.